

一致協力し地域の安全と発展を 新年互礼会など開く

広島安全施設業協同組合



あいさつする宮川理事長



乾杯のもよう

広島安全施設業協同組合（宮川裕正理事長）の「2020年新年互礼会」が1月30日、広島市中区のメルパルク広島で開催され、組合員45人の出席のもと、新年の門出を祝った。

互礼会では宮川理事長が挨拶で「昨年は皆さんから多くの協力を得て『こともを守ろうプロジェクト事業』で防災ハザードマップ標識の作成に従事。新年度での公共予算に期待するとともに新たな事業計画として取り上げていく。また、今年

は早々に新型コロナウイルスの問題発生で世間を騒がせているが、これは今の日本を的確に表している出来事のように思う。一番の問題は危機感のないこと。あまりにも政治を含め温い状況が続いており、社会的にも『危機感が薄い』という恐れすらも。やはり一人ひとりがきちっとした考え方を持っていかなないと、全体が良くならない。組合は微力ではあるが、組合員一同、一致協力して地域の安全と発展のためにできることから

着実に進めていく」と述べ、一層の理解、協力を求めた。

続いて、広島県中小企業団体中央会の畠山朋之氏が来賓挨拶で、「今年4月から中小企業においても適用される働き方改革関連法でこの適切な対応が待ったなしの状況だ。この推進で労働時間短縮など生産性向上が成し遂げられるよう補助金等の活用を通して設備投資などの支援が重要な取り組みと感じている。経営などの現場で実際に何が起きているのか把握し、それを踏まえながら課題解決に向き合うことが我々の原点である」と強い決意を示し、組合への一層のサポート支援を推進。

その後、日野寛理事の乾杯音頭で祝宴に入り、会員相互の親睦を深めた。また、互礼会に先立ち安全祈願祭を広島護国神社で行い、組合員各社の工事の安全とともに発展を祈願した。